大久保利通と日本遺産認定

大久保利通と国営安積開墾事業

明治4年（1871）に、岩倉具視（ともみ）を特命全権大使とする欧米派遣使節団が横浜港を出港した。大久保利通は、副使として同行した。当時最新の技術、文化、制度などを目にした大久保ら使節団は、帰国後近代化を進めていくこととなる。明治6年（1873）に内務省が設置され、大久保は初代内務卿へ就任した。

明治9年（1876）に、明治天皇の東北巡幸が行われた。大久保は、巡幸先の準備や点検のために先発として各地を巡った。また、殖産興業政策の奨励、東北地方開発や県の統廃合を進めるための現地視察も兼ねていた。

大久保が訪れた頃の桑野村は、大槻原開墾により急速に作られた開墾地であった。「開拓地ヲ廻り大略ヲ一覧イタシ候」と日記に記している。

明治天皇巡幸の随行から帰った大久保は、士族授産による東北地方を開発する準備に取り掛かった。各地で士族による反乱が相次ぐ中、明治政府にとって士族の生活安定は課題の一つであった。大久保は、東北地方開発と共に、士族授産を行うことで問題解決を図ろうとした。内務省勧業寮高畑千畝（ちうね）、南一郎平を東北地方へ派遣し、調査が行われた。

明治10年（1877）に、南は安積原野が開墾の適地であるとの復命書を提出した。これを受けて、内務省は「福島県下岩代国安積郡対面原及ビ接近諸原野凡四千町歩余ノ地ヲ以テ着手ノ地ト為ス」ことを決定した。

士族による大規模な開墾事業を行うにあたり、水の確保は重要である。そこで、猪苗代湖からの水を流す疏水開さく事業も同時に進められた。

六月五日　月曜日
今朝六字小野新町驛ヲ發
ス三春迄ノ間道路不宜
處々嶮難アリ十一字三春江
着午飯十二字ニ發シ二字郡
山江着福島縣令參事山吉
（盛典）氏當所江出張有之
則桑野村開拓地江案内有
之差越廣大ノ土地開拓之
業相成リ實ニ可見凡百二
三十町有之桑水田其外樹
木モ試驗此模様ニテハ成功
無疑人民モ百二十戸位モ
移住ノ由此中央ニ洋室ノ
盛大ナル建築有之三階作
ニテ眺望至テ宜シク最風景
モ美ナリ掛官員ヨリ彼是
承リ歸懸開拓地ヲ廻リ大
略ヲ一覧イタシ候

大久保利通日記
『大久保利通日記　二』より抜粋

大久保 利通
画像提供・国立国会図書館
旧薩摩藩士。初代内務卿。

奈良原 繁
旧薩摩藩士。国営安積疏水開さく事業の責任者として桑野村に常駐した。

南 一郎平
大分県の庄屋に誕生する。奈良原繁と共に桑野村に常駐した。

大久保神社（故内務卿大久保公追遠碑）
安積公民館牛庭分館（郡山市安積町牛庭）隣。

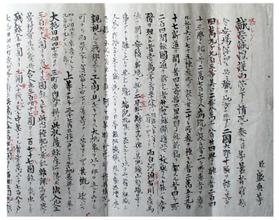
明治天皇巡幸と開成館

明治天皇は、大規模な巡幸を6度行っている。そのうちの2度、桑野村、そして開成館への行幸があった。明治9年（1876）に行われた巡幸では、先発として内務卿大久保利通が訪れ、後の国営安積開墾・安積疏水開さく事業へとつながっている。

明治9年の巡幸の際に、開成館は行在所（あんざいしょ）となった。明治天皇の玉座が開成館の3階に設けられた。福島県参事山吉盛典（もりのり）、権参事中條政恒により開墾事業などについて奏上された。また、開成社員など開墾功労者が呼ばれて、右大臣岩倉具視より褒詞が伝えられた。

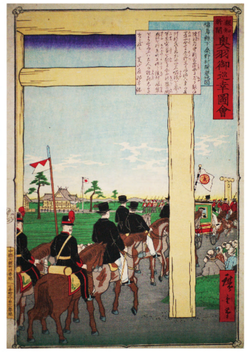
明治14年（1881）の巡幸の際には、開成館は昼食会場として使用された。当時、旧久留米藩士族の入植者からなる久留米開墾社で、開墾社の分離騒動が起きていた。大久保利通亡き後の明治11年（1878）に、真っ先に入植した久留米開墾社であったが、明治13年（1880）に起こった不正事件がきっかけで、内紛となった。福島県開拓科出張所長立岩一郎はじめ、中條政恒や農商務省権大書記官奈良原繁も説得をする事態となった。

明治14年の巡幸の際に、久留米開墾社が入植した大蔵壇原で明治天皇が野点を催した。分離騒動を知った明治天皇は、和親合一の声をかけ、これを機に合一へ向けての協議が行われた。



奏上文草案
（福島県下人民分限概表奏上文雛形）
（部分）
中條家文書　郡山市歴史資料館蔵

明治天皇桑野村行在所碑
明治天皇駐蹕之処碑
郡山市開成館敷地内



報知新聞　奥羽御巡幸図会
福島県立博物館蔵

日本遺産認定

平成28年（2016）4月25日に、猪苗代湖・安積疏水・安積開拓を結ぶストーリー『未来を拓いた「一本の水路」 ―大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡　郡山・猪苗代―』が日本遺産に認定された。

日本遺産とは…

「日本遺産（Japan Heritage）」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するもの。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。

猪苗代湖
画像提供・郡山市

開成山の桜
画像提供・郡山市

JAPAN HERITAGE
日本遺産

日本遺産ストーリー概要

明治維新後、武士の救済と、新産業による近代化を進めるため、安積地方の開拓に並々ならぬ想いを抱いていた大久保利通。夢半ばで倒れた彼の想いは、郡山から西の天空にある猪苗代湖より水を引く「安積開拓・安積疏水開さく事業」で実現した。

奥羽山脈を突き抜ける「一本の水路」は、外国の最新技術の導入、そして、この地域と全国から人、モノ、技を結集し、苦難を乗り越え完成した。この事業は、猪苗代湖の水を治め、米や鯉など食文化を一層豊かにし、さらには水力発電による紡績等の新たな産業の発展をもたらした。

未来を拓いた「一本の水路」は、多様性と調和し共生する風土と、開拓者の未来を想う心、その想いが込められた桜とともに、今なおこの地に受け継がれている。